

アンチ・ドーピング

責任者・コーディネーター	創剤学分野 杉山 育美 講師		
担当講座・学科(分野)	創剤学分野		
対象学年	4	区分・時間数	講義 9時間
期 間	前期		
単 位 数	0.5 単位		

・学習方針（講義概要等）

スポーツは、トップアスリートだけでなく、娯楽として、また、健康維持や疾病予防の観点から幅広い年代で親しまれている。しかしながら、よい記録を追及するあまりに、くすりを摂取するドーピングが問題となっている。これに対するアンチ・ドーピングの活動は世界的に展開されており、様々な競技会で検査が行われている。しかしながら、スポーツ選手や一般の愛好家はくすりに関する知識が乏しく、特に本邦においては日常的に服用する医薬品への理解不足による意図しないドーピング違反が起きているのが現状である。そこで、くすりの専門家である薬剤師が正確な情報をスポーツ選手に与える必要があり、日本アンチ・ドーピング機構は、薬剤師を対象に公認スポーツファーマシストを認定している。本講義では、薬剤師を目指す薬学部生の立場からスポーツと薬の関わりや知識を学び考える。

・教育成果（アウトカム）

スポーツ選手の医薬品に対する認識と現状、スポーツ薬理学への理解、ドーピングコントロールの現場を知ることで薬学生の立場からスポーツファーマシストに対する理解を深め、臨床現場にとどまらない薬剤師の役割が認識できる。
(ディプロマ・ポリシー：2,3,4,6)

・到達目標（SBO）

1. スポーツファーマシストの存在と意義を説明できる。（☆）
2. スポーツ薬理学の意義を説明できる。（☆）
3. ドーピングコントロールの役割と現状を説明できる。（☆）
4. スポーツファーマシストとしての活動に関し討議できる。（☆）

・講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/16	火	1	創 剤 学 分 野	杉山 育美 講師	スポーツファーマシストとは 1. スポーツファーマシストの存在と意義を説明できる。 2. ドーピング及びアンチ・ドーピング活動について説明できる。 3. アンチ・ドーピング活動を行う際の具体的な活動事例を提案できる。 【グループワーク】 【ICT(slide)】

					<p>事前学修：過去のドーピング違反を1例調べてくる。 事後学修：教科書 p7～22 を熟読する。</p>
4/18	木	4	創剤学分野	杉山 育美 講師	<p>スポーツ薬理学 1. スポーツ薬理学の意義を説明できる。 2. 平常時と運動時の薬理作用の違いに関し説明できる。 3. 運動時、注意すべき医薬品を列挙できる。 【グループワーク】【ICT(slide)】 事前学修：薬理学全般に関し復習してくる。 事後学修：講義の中で挙げたポイントを復習する。</p>
4/23	火	5	創剤学分野	杉山 育美 講師	<p>現場体験 シャペロンとして活動 1. ドーピングコントロールの役割と現状を説明できる。 2. ドーピング検査におけるシャペロンの役割を説明できる。 3. ドーピング検査法を説明できる。 【フィールドワーク】 事前学修：これまでの内容についてまとめる。 事後学修：講義の中で挙げたポイントを復習する。</p>
5/7	火	5	りんどう薬局 創剤学分野	本田 昭二 薬剤師 杉山 育美 講師	<p>ドーピングコントロール 1. ドーピングコントロールの役割と現状を説明できる。 2. ドーピング検査の現状を説明できる。 3. アンチ・ドーピング機構について述べる事ができる。 【ICT(slide)】 事前学修：日本アンチ・ドーピング機構について調べる。 事後学修：教科書 p39～46 を熟読する。</p>
5/14	火	1	スポーツ ファーマシスト 創剤学分野	金子 宜令 薬剤師 杉山 育美 講師	<p>スポーツファーマシストになったきっかけと活動 1. スポーツファーマシストの存在と意義を説明できる。 2. 薬剤師免許取得後にスポーツファーマシストの資格を取る手順を説明できる。 3. スポーツファーマシストの活動を説明できる。 【グループワーク】【ICT(slide)】</p>

					<p>事前学修：教科書 p23～38 を読んでおく。 事後学修：講義の中で挙げたポイントを復習する。</p>
5/16	木	1	創剤学分野	杉山 育美 講師	<p>アスリートへの服薬指導シミュレーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツファーマシストの活動について討議できる。 2. スポーツファーマシストの活動を想定し、競技別に禁止薬物を列挙できる。 3. 処方内容より、競技別に禁止物質が含まれていないかどうかを判断し、疑義照会をするとともに、新たな処方提案ができる。 <p>【グループワーク】【ICT(slide)】【プレゼンテーション】</p> <p>事前学修：最新のドーピング違反薬物の概略をまとめる。 事後学修：他のグループの発表から良い点や疑問点を見つける。</p>

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	アンチ・ドーピングを通して考えるスポーツのフェアとは何かー	(公財)日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) 監修	(公財)日本アンチ・ドーピング機構	2013

・成績評価方法

講義への参加態度（50%）、グループワーク（25%）、レポート提出（25%）により総合的に評価する。

・特記事項・その他

持ち物：スマートフォンもしくはタブレットを持参すること。
事前学修は、各回において立場の違う観点から講義を行うので、それぞれの立場を理解するよう予習することとし、各回最低 35 分を要する。事後学修は、各回の講義において重要なポイントを明示するので、この点を中心に最低 35 分論理的な復習をすること。
各回の講義で与えるテーマについてのレポート作成に 35 分を要する。レポートの内容は次の講義の最初に紹介し、考えやポイントをシェアするとともに解説する。
グループワークでの成果をもとに行うプレゼンテーション後にフィードバックを実施する。